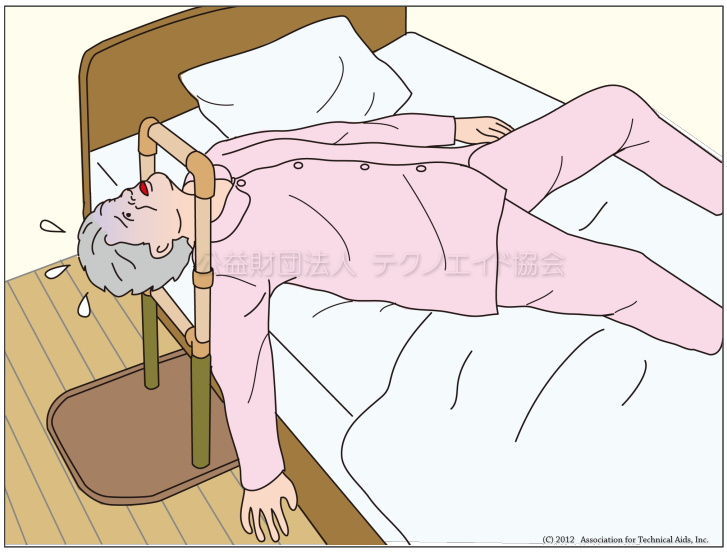
福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：289
転倒した際、手すりの隙間に頭を挟んでしまう

場面の説明

転倒したはずみで首が床置き形手すりの隙間に入り込んでしまい、抜けなくなってしまった



利用シーン	起居・就寝
主な利用場所	寝室
介護保険の種目	手すり
分類コード (CCTA95)	123009 (床置き式起き上がり用手すり)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

実際に死亡事故が起こってしまった事例です。手すりは転倒を防いだり、立ち上がりを補助する目的で使用するものですが、配置が不適切であったり、本来手すりを安全に使用できない人に用いたりすることで、かえって危険になってしまうことがあります。適切な配置を検討し、十分に説明することはもちろんですが、利用すること自体が適切であるかどうかの判断が重要です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

モノ：ちょうど頭が入り込んでしまう隙間があった
環境：設置場所が悪かった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.